

履くだけで上級者映える  
大好きなワークを選んだ!

ストリート系スタイルアップの定番となったワーク・シーカーの上位シリーズとなるのが、このグランシーカーだ。スタイルアップの原風景を連想させるオールドスクールな装いはシーカー譲り。コンパクトクラスに振ったシーカーに対し、グランシーカーはミドルクラスの高級モデルに照準を合わせているのが特徴で、そのためサイズ設定も19インチオーバーに絞り、デザインもより優雅で、アッパーモデルに相応しい仕立てとなっている。

そんなグランシーカーの最新作となるのが、こちらのDMX。ご覧の通り、リングを隔てたディスク内外で異なるデザインを施した、かなり異色のダブルフェイスモデルとなっている。デザインの軸となる内側にはオールドスクール系の王道といえる足の短い10交点メッシュを、リング外側にはヒネリを効かせたスポークデザインを与えることで、メッシュ単体では演出できない躍動感が表現されている。明確に内外で異なるデザインを与えるという、ある意味常識はずれなコンセプトに目を奪われるが、こうして20インチの枠のなかに収めてみると、徐々に一体的デザインに見えるはじめるから面白い。こちらのアウディTTのオーナーは、これまでに50台を超えるクルマでカスタムを遊び尽くしてきた宮内サン。前車アウディA5で輸入車遊びに目覚め、引き続きアウディTTもマッキナに依頼した。

「もともと人と違うデザインのホ

イールが好きで、ずっとワークを履いてきたのでホイールはすんなり決まりました。デザインが派手なぶんフィニッシュはブレインなカットクリアを選びましたが、デザインを際立たせるならもっと派手な色もありですね」と宮内サン。

だが、オーナーとして見慣れると、もともとこの衝動に駆られるのだから。もちろんワークでは独自のカラーリムをはじめとするセミオーダープランを豊富に用意されているので、さらに个性的に仕立てることも可能だ。色で遊んでも、シンプルにキメても、国産ホイールとしては破格のデザイン性を備えるこのDMXは、とりあえず履くだけで上級者映えること間違いなしの本物だと思っ



↑ディスク内外を隔てるリング形状を境に全く異なる表情をみせる。トラディショナルな雰囲気の中に革新性を込めた、注目の1本だ

↓KW本場で製作した特注スプリングを組み込むことで、抜群のスタイリングと乗り心地を実現。ホイールのセッティングを含め、さすがマッキナらしい仕立てといえる



←リムにギリギリ被らない絶妙なフィットワークのセッティングも見どころのひとつ。ちなみにフロントバンパーは前期顔を求めてTT 20イヤーズに交換し、リーガーチューニングのフロントリップも自分好みに形状変更した

SPEC  
ワーク  
グランシーカーDMX  
F:9J×20インチ+38  
R:10J×20インチ+31  
KW Ver1車高調  
フロントバンパー・アウディTT20イヤーズ純正  
KWフロントリップ加工

# WORK Gran Seeker DMX

× Macchina AUDITT

## アウディTTをホイール一発で魅せる カスタムを遊び尽くしてきた達人の技!

アウディTTの達人オーナー宮内サンがマッキナに依頼して仕上げた大人っぽく、シンプルながらこだわった一台。極低スタイリングと、個性派ホイールでクールに仕上がった。

写真&文 ● 浦野浩之

問 ● ワーク TEL.06・6746・2859 www.work-wheels.co.jp  
撮影協力 ● マッキナ TEL.072・446・3733 www.macchina-style.com

